

- 問1 新羅が唐と結び朝鮮半島の統一を進める過程で、日本（倭国）は百済を救援するために軍を派遣しましたが、唐・新羅の連合軍に大敗しました。この戦いの名称と、その後の日本がとった対応に関する説明として、正しい組み合わせを選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 白村江の戦いで敗れ、唐や新羅の侵攻に備えて九州に防人や水城を置いた | 2. 白村江の戦いで敗れ、隋に使者を送るのをやめて大陸との交流を断絶した | 3. 文永の役で敗れ、全国の武士に動員令をかけて博多湾に石築地を築いた | 4. 湊川の戦いで敗れ、朝鮮半島との交易を一切禁止して鎖国体制を整えた |
|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
- 問2 7世紀後半、日本（倭）は百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。その後、唐や新羅による日本への侵攻に備え、九州北部に位置する政治の拠点「大宰府」を守るために築かれた、大規模な土塁と堀による防衛施設を何といいますか。（2022年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 水城 | 2. 多賀城 | 3. 烽火 | 4. 防人 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問3 645年に始まった政治改革の資料において、中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を打倒し、新たな政治体制を築こうとする記述が見られます。この一連の改革によって日本で初めて元号が導入された背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 中国の唐に対して完全な服従を誓い、唐と同じ元号を使用することで安全保障を得るため。 | 2. 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。 | 3. 蘇我氏が代々使用してきた独自の暦を廃止し、仏教の教えに基づいた新しい時間管理を行うため。 | 4. 有力な豪族たちが交代で元号を決める権利を持つことで、貴族政治の安定を図るため。 |
|--|---|---|--|
- 問4 聖徳太子（厩戸皇子）が冠位十二階を定めた背景には、どのような意図があったと考えられますか。当時の政治状況を踏まえた説明を選びなさい。（2023年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 中国の唐から伝わった最新の法典に基づき、全国に一律の税制と身分制度を導入するため。 | 2. 武士の台頭に対抗するため、公家の中で才能ある若手を抜擢し、軍事力を強化するため。 | 3. 家柄の良い豪族をより厚遇することで、天皇に対する忠誠心を高め、国内の反乱を抑えるため。 | 4. 特定の有力な氏族が政治を動かす仕組みから、天皇を中心とする役人による組織的な政治へ転換するため。 |
|--|---|--|---|
- 問5 現在の福岡県太宰府市周辺には、土を高く盛って作られた巨大な壁と、その外側に水を蓄えた堀の遺構が残っています。この施設が築かれた歴史的背景を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. モンゴル帝国（元）の軍隊が九州へ上陸するのを阻止するため、博多湾の沿岸に沿って石造りの壁が築かれた。 | 2. 卑弥呼が治める邪馬台国の集落を、周囲の敵対する勢力から守るために深い溝と柵が作られた。 | 3. 百済を救うために送った軍隊が白村江の戦いで敗れ、唐や新羅が日本へ攻めてくることを防ぐために築かれた。 | 4. 豊臣秀吉が朝鮮半島への出兵（文禄・慶長の役）を行う際、九州北部の拠点を防衛するために築かれた。 |
|---|--|---|--|
- 問6 飛鳥時代から奈良時代にかけての歴史的な出来事をまとめた記録において、日本は遣隋使や遣唐使といった使節を繰り返し中国へ派遣していました。このような使節が派遣された主な目的として最も適切な説明はどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|---|
| 1. キリスト教や鉄砲といったヨーロッパの新しい技術を中国経由で導入するため | 2. 中国の優れた統治システムや文化を学び、日本国内の政治体制を整えるため | 3. 中国の軍事的な援助を受けて、朝鮮半島の諸国を武力で制圧するため | 4. 中国の皇帝から日本の王としての地位を認めてもらい、朝貢貿易を独占するため |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|---|
- 問7 6世紀に日本へ仏教を伝えた朝鮮半島の国であり、のちに唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。この国が滅亡した際、日本はその再興を支援するために大軍を朝鮮半島へ派遣しました。（2019年 鳥根県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 新羅 | 2. 百済 | 3. 高句麗 | 4. 高麗 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問8 飛鳥時代に遣隋使が派遣された背景や目的について説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2017年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 朝鮮半島での戦いを有利に進めるため、中国の軍事的な援助を直接受けることを目的とした。 | 2. 中国との貿易において、日本産の銀や銅を輸出して経済的な利益を独占しようとした。 | 3. 仏教を日本から中国へ広めるために、聖徳太子自らが選んだ高僧を派遣した。 | 4. 中国の進んだ制度や文化を取り入れることで、天皇を中心とする中央集権国家の形成を目指した。 |
|---|--|--|---|
- 問9 飛鳥時代の出来事のうち、中大兄皇子（天智天皇）らによる大化の改新（645年）よりも前に起こった出来事はどれですか。（2026年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1. 天武天皇が壬申の乱に勝利して実権を握った | 2. 正倉院に納められているような精緻な戸籍が全国で作られた | 3. 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された | 4. 桓武天皇によって平安京への遷都が行われた |
|-------------------------|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|
- 問10 663年に朝鮮半島の西南部の海域で発生した「白村江の戦い」とその後の日本の動向について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 女真族の侵入をきっかけに、朝廷は遣唐使の派遣を完全に停止した | 2. 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とびひ）を配置した | 3. 元の軍勢を暴風雨の助けを借りて退け、これを機に武士の力が強まった | 4. この戦いに勝利したことで、日本は朝鮮半島南部での影響力を強めた |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------------------|
- 問11 古代の日本が、唐などの中国の国家体制を手本として「律令」を導入した目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|-------------------------------------|
| 1. 仏教を国教と定め、寺院が政治の全権を握ることで民衆の不満を抑えるため | 2. 天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築き、国内外に対して独立国家としての地位を示すため | 3. 武士が領地を支配する権利を法的に保障し、幕府による全国支配を安定させるため | 4. 地方の有力な豪族に、独自の軍隊と土地支配の権限を公式に認めるため |
|---------------------------------------|---|--|-------------------------------------|
- 問12 推古天皇の即位や冠位十二階の制定などが記された7世紀初頭の歴史年表において、この時期に並行して栄えた文化の記述として、その特徴と中心地の組み合わせが適切なものを選びなさい。（2017年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--|---|
| 1. 貴族が日本の風土や生活に合わせた文化を生み出し、平安京を中心に栄えた。 | 2. 日本最初の仏教文化であり、現在の奈良県にある飛鳥地方を中心に栄えた。 | 3. 天武天皇や持統天皇の時期を中心とし、薬師寺の造営などに見られる文化である。 | 4. 唐の文化の影響を強く受けた国際色豊かな文化であり、平城京を中心に栄えた。 |
|--|---------------------------------------|--|---|
- 問13 大化の改新が行われた際、中国の制度にならって日本で初めて導入され、現代の「令和」に至るまで日本の歴史の中で継続して使われている制度は何ですか。（2026年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|----------|----------|-------|
| 1. 元号 | 2. 班田収授法 | 3. 租・庸・調 | 4. 律令 |
|-------|----------|----------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 白村江の戦いで敗れ、唐や新羅の侵攻に備えて九州に防人や水城を置いた	663年の白村江の戦いでの大敗後、当時の政権（天智天皇）は、唐や新羅が日本へ侵攻してくることを強く警戒しました。そのため、九州に防人を配備し、大宰府の北側に水城（土塁と溝による防衛施設）を築くなど、国土の防衛体制を急速に整えることとなりました。
問2	答え 1 水城	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭国は、大陸からの報復による侵攻を強く警戒しました。九州の政治・外交の要所であった大宰府を防御するため、その北側に全長約1.2km、高さ約10mにも及ぶ巨大な土塁を築き、博多湾側には水を湛えた堀を設けました。これを水城と呼び、日本の古代国家における防衛体制の整備を象徴する遺構となっています。
問3	答え 2 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。	元号の制定は、単なる年数の数え方の変更ではなく、その土地を支配する君主が時間をも支配するという「空間と時間の主権」を象徴する行為でした。大化の改新において中大兄皇子らが日本初の元号「大化」を定めたのは、それまで力を持っていた蘇我氏などの有力豪族を抑え、天皇を中心とした律令国家を形成しようとする強い政治的意志の表れです。
問4	答え 4 特定の有力な氏族が政治を動かす仕組みから、天皇を中心とする役人による組織的な政治へ転換するため。	当時の政治は、蘇我氏などの有力な豪族が強大な権力を持っていました。聖徳太子や推古天皇は、こうした特定の家柄に依存する政治から脱却し、天皇が直接任命した「役人」による効率的な統治を目指しました。冠位十二階は、個人の能力を基準に役人を組織に組み込むことで、天皇の権威を高め、大陸の先進的な国家体制に近づけようとする目的がありました。
問5	答え 3 百済を救うために送った軍隊が白村江の戦いで敗れ、唐や新羅が日本へ攻めてくることを防ぐために築かれた。	7世紀、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を拡大し、倭と親交のあった百済を滅ぼしました。倭は百済復興のために軍を派遣しましたが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北しました。これにより本土への侵攻を恐れた天智天皇（中大兄皇子）は、大宰府を守るための「水城」や、西日本の各地に「朝鮮式山城」と呼ばれる城を築き、国防を急ぎ整えました。選択肢にある「防塁」は鎌倉時代の元寇に対する備えであり、時代背景が異なります。
問6	答え 2 中国の優れた統治システムや文化を学び、日本国内の政治体制を整えるため	当時の日本は、大陸の先進的な文明を取り入れることで中央集権国家を確立しようとしていました。小野妹子などの使節とともに多くの留学生や学問僧が中国へ渡り、律令制度や仏教、芸術などを学ぶことで、大化の改新や平城京の建設といった国づくりに大きく貢献しました。
問7	答え 2 百済	538年（または552年）に聖明王を通じて日本に仏教を伝えたことで知られる国です。7世紀に入り、朝鮮半島の統一を目指す新羅が唐と結んだことにより、660年に滅ぼされました。日本と密接な外交関係にあったため、当時の日本政府は遺民とともに国の再興を試みましたが、白村江の戦いでの敗北により失敗に終わりました。
問8	答え 4 中国の進んだ制度や文化を取り入れることで、天皇を中心とする中央集権国家の形成を目指した。	当時の日本は、冠位十二階や十七条の憲法の制定など、国内の政治体制を整える必要があった。そのため、中国の進んだ政治制度や文化を吸収し、国内の豪族を統制して天皇中心の政治を確立することが派遣の大きな目的であった。
問9	答え 3 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された	遣隋使の派遣は607年に行われた出来事であり、645年の大化の改新よりも前です。壬申の乱（672年）や、721年の正倉院文書に見られるような律令制度に基づく戸籍の整備、そして794年の平安京遷都はすべて大化の改新よりも後の出来事です。
問10	答え 2 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とぶひ）を配置した	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北した日本は、大陸からの報復を強く警戒しました。そのため、九州の防衛のために防人を置き、急を知らせるための烽（のろし）のネットワークを整備しました。また、天智天皇は都を内陸の近江大津宮へ移すなど、国家の防衛と中央集権化を加速させました。選択肢にある元の侵攻（元寇）や女真族の侵入（刀伊の入侵）は、いずれも白村江の戦いよりも後の時代の出来事です。
問11	答え 2 天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築き、国内外に対して独立国家としての地位を示すため	当時の東アジア情勢の中で、日本が統一された文明国家であることを示す必要がありました。律令を導入することで、土地と人民を国家の管理下に置く（公地公民）仕組みを作り、戸籍の作成や租・庸・調といった税制を確立させ、天皇に権力を集中させる国家体制の構築を目的としました。
問12	答え 2 日本最初の仏教文化であり、現在の奈良県にある飛鳥地方を中心に栄えた。	飛鳥時代、特に推古天皇の時代には現在の奈良県明日香村周辺（飛鳥）に政治の拠点が置かれていました。渡来人の技術を取り入れた寺院建築や仏像制作が盛んに行われ、仏教を中心とした独自の文化が形成されました。選択肢にある平城京や天平文化、平安京や国風文化は、より後世の時代の特徴です。
問13	答え 1 元号	645年の改革に際し、日本で最初の元号として「大化」が定められました。これは、天皇が空間だけでなく「時間」も支配するという考え方に基いたものです。以後、一部の中断を除いて現代まで元号の制度は引き継がれています。

- 問1 7世紀後半、朝鮮半島において唐と結ぶことで百済や高句麗を滅ぼし、半島を初めて統一した国を選びなさい。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
1. 高句麗 2. 隋 3. 百済 4. 新羅
- 問2 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた大和政権（日本）は、大陸からの侵攻を恐れて九州などの防衛を強化しました。その際、九州北部に築かれた土塁と堀による防御施設、およびそこに配置された兵士の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
1. 水城と防人 2. 多賀城と健児 3. 多賀城と防人 4. 水城と東山道の兵
- 問3 7世紀後半に起こった壬申の乱について、その出来事の原因や結果を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2017年 高知県公立入試 類似)
1. 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。
2. 地方武士の不満が高まったことで発生し、平将門が関東で自ら「新皇」を名乗って朝廷に反旗を翻した。
3. 仏教勢力の影響を排除し、政治を立て直すために、桓武天皇が都を平城京から平安京へと移した。
4. 天皇を退位したあと政治の実権を握ろうとした白河上皇が、藤原氏の摂関政治を抑えるために院政を開始した。
- 問4 7世紀の日本が遣隋使の派遣や大化の改新を経て、急速に律令制度を導入し、中央集権体制を確立しようとした背景について説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。
2. 元の襲来（元寇）を受けた経験から、九州沿岸の警備を強化するために中央から地方へ命令を伝える仕組みを整えたため。
3. 建武の新政において、公家と武士の双方を納得させるための新しい裁判基準を定める必要があったため。
4. 承久の乱によって朝廷の権威が失墜したため、天皇の力を再び強めるための新しい法律が必要になったため。
- 問5 天武天皇の時代に作成が開始された「庚午年籍」などの戸籍は、中央集権体制を築く上でどのような目的で作成されましたか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため
2. 地方の豪族に対して土地の私有権を認め、その忠誠を確保するため
3. 諸外国との交易を円滑にするため、都市部の商人層の構成を調査するため
4. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院と僧侶の数を管理するため
- 問6 中大兄皇子が中心となって進めた「大化の改新」では、それまで有力な豪族が私有していた土地や人民を、すべて国家（天皇）が直接支配する仕組みへと改めようとしていました。この方針を何と呼びますか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
1. 班田収授 2. 公地公民 3. 墾田永年私財 4. 寄進地系荘園
- 問7 672年に起きた皇位継承をめぐる最大の内乱である壬申の乱において、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した人物は誰か。 (2016年 山形県公立入試 類似)
1. 天武天皇 2. 聖武天皇 3. 天智天皇 4. 桓武天皇
- 問8 7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 新羅 2. 任那 3. 百済 4. 高句麗
- 問9 聖徳太子が活躍した7世紀前後の外交や文化に関する記述として、正しいものはどれか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
1. 元寇による危機を乗り越えるため、執権を中心とした武家政権が沿岸部の防備を強化した。
2. 鑑真を日本に招き、唐の進んだ律令制度を完成させるとともに、国風文化を大きく発展させた。
3. 倭の五王が中国の南朝に使いを送り、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めるよう求めた。
4. 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。
- 問10 聖徳太子が「冠位十二階」や「十七条の憲法」を制定した大きな目的として、最も適切なものはどれか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 仏教を排除して日本の伝統的な神道を保護するため
2. 地方の有力な豪族に領地の永代支配権を認めるため
3. 隋から来た留学生に日本の進んだ法制度を示すため
4. 天皇を中心とした中央集権的な国家の基盤を築くため
- 問11 6世紀末に中国を統一した王朝であり、聖徳太子が摂政を務めていた607年に、小野妹子らが使者として派遣された先である王朝名として正しいものを選びなさい。 (2026年 長野県公立入試 類似)
1. 秦 2. 唐 3. 隋 4. 宋
- 問12 飛鳥時代における歴史的事項を記した年表において、672年に「壬申の乱」が起こったとの記載があります。この乱に勝利し、その後に即位して天皇中心の中央集権体制をさらに進めた人物は誰ですか。 (2024年 高知県公立入試 類似)
1. 天武天皇 2. 推古天皇 3. 天智天皇 4. 後三条天皇
- 問13 645年から始まった大化の改新において示された、それまで有力な豪族が私有していた土地や人民を、国家（天皇）が直接支配する体制へと改める方針を何といいますか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
1. 地租改正 2. 公地公民 3. 墾田永年私財法 4. 版籍奉還
- 問14 白村江の戦いにおける大敗後、大和政権が急速に中央集権体制の確立（公地公民や律令の整備）を急いだ背景として、当時の東アジア情勢から考えられる理由を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2025年 奈良県公立入試 類似)
1. 平氏や源氏といった武士団の台頭を抑え、天皇中心の軍隊を再編する必要があったから。
2. 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることで精神的な団結を図ったから。
3. 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。
4. 朝鮮半島での利権を完全に放棄し、国内の開墾事業に専念して食糧増産を目指したから。
- 問15 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が603年に定めた「冠位十二階」の制度は、それまでの「氏姓制度」による官職のあり方をどのように変えようとしたものですか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 高知県公立入試 類似)
1. 仏教の教えを広めるために、僧侶に対して位階を授けること。
2. 地方の豪族に対して、領地の支配権を認める代わりに軍役を課すること。
3. 家柄にとらわれず、個人の能力や功績がある人物を役人として登用すること。
4. 有力な豪族が代々特定の官職を独占し、世襲することを保証すること。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 新羅	4世紀頃から高句麗、百済、新羅の3国が勢力を争う三国時代が続いていましたが、7世紀に唐と結んだ新羅が660年に百済、668年に高句麗を相次いで滅ぼしました。その後、新羅は共同で戦った唐の勢力も退け、676年に朝鮮半島の統一を成し遂げました。
問2	答え 1 水城と防人	敗戦後、天智天皇は唐や新羅の侵攻に備えるため、対馬や九州北部に「防人（さきもり）」と呼ばれる兵士を配置しました。また、大宰府を守るために福岡平野の奥に「水城（みずき）」という巨大な土塁と堀を築き、さらに周囲の山々には「朝鮮式山城（ちょうせんしきやまじろ）」を建設して防衛網を固めました。多賀城は後世に東北地方の蝦夷に対抗するために築かれたものです。
問3	答え 1 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。	壬申の乱は、大化の改新から続く律令国家形成の過程で発生した極めて重要な内乱です。勝利した天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から、天皇に権力を集中させる政治体制へと移行させ、後の大宝律令の完成へとつながる基礎を固めました。他の選択肢は、8世紀末から11世紀にかけての異なる時代の出来事です。
問4	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。	663年の白村江の戦いでの大敗は、日本に唐などの強大な勢力による侵攻の危機感を与えました。これに対抗するため、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」を原則とする律令体制を整え、国力を結集できる仕組みを急いで作る必要があったのです。
問5	答え 1 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため	中央集権国家の確立には、国家が直接人民を支配し、労働力や税を徴収する仕組みが不可欠でした。戸籍（庚午年籍）を作成して全国規模で人民を登録することで、公平かつ確実な徴税や徴兵を可能にし、天皇による統治基盤を強化する狙いがありました。
問6	答え 2 公地公民	唐（中国）の制度を参考にしたこの方針は、豪族による私的支配を否定し、国家の財政基盤を安定させるために導入されました。これにより、すべての民は国家の公民とされ、一定の土地を与えられる代わりに税を納める義務を負うという、律令国家の基礎が築かれました。
問7	答え 1 天武天皇	天智天皇の弟である大海人皇子は、壬申の乱で勝利した後に飛鳥浄御原宮で即位した。これ以降、それまでの「大王（おおきみ）」という称号に代わり「天皇」の称号が本格的に使われ始めたと考えられており、中央集権化が急進した。
問8	答え 3 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問9	答え 4 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。	聖徳太子は、対等な立場での外交を目指して遣隋使を派遣しました。ここでの学びが、日本初の憲法とされる「十七条の憲法」における仏教の尊重や、儒教的な役人の心得といった内容に反映されています。
問10	答え 4 天皇を中心とした中央集権的な国家の基盤を築くため	当時は豪族同士の勢力争いが続いていたため、家柄ではなく能力で役人を登用し、さらに役人の心得を定めることで、天皇の命令が全国に行き届くような強力な政治体制（中央集権国家）を作ろうと考えました。
問11	答え 3 隋	589年に中国を統一した隋に対して、聖徳太子は小野妹子を遣隋使として派遣しました。これは当時の先進的な文化や制度を直接取り入れ、国力を高める目的がありました。遣隋使はその後、隋が滅びて唐が成立するまで数回にわたり派遣されました。
問12	答え 1 天武天皇	672年に起こった壬申の乱は、天智天皇の死後にその弟の大海人皇子と、子の大友皇子が皇位をめぐって対立した古代最大の内乱です。この戦いに勝利した大海人皇子が天武天皇として即位しました。天武天皇は、飛鳥浄御原令の編纂に着手したり、国史（古事記・日本書紀）の編纂を命じたりするなど、天皇の権力を絶対的なものにするための政策を次々と打ち出しました。
問13	答え 2 公地公民	大化の改新で出された「改新の詔（みことのり）」の第一条では、豪族が支配していた土地（田荘）や人民（部曲）を廃止し、すべてを国家のものとすることが宣言されました。これが公地公民の制であり、天皇を中心とする律令国家を目指すための重要な基盤となりました。
問14	答え 3 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。	対外的な軍事的敗北は、当時の政権にとって国家滅亡の危機でもありました。唐や新羅の侵攻に備えるためには、軍備を整えるだけでなく、戸籍を作成して徴兵や徴税を確実に行える強力な政府（中央集権国家）を作る必要がありました。これが、天智天皇から天武天皇、持統天皇へと続く律令国家建設の大きな動機となりました。
問15	答え 3 家柄にとらわれず、個人の能力や功績がある人物を役人として登用すること。	当時の日本は、氏（家柄）によって地位が世襲される氏姓制度が中心でしたが、聖徳太子は天皇中心の国づくりを進めるため、個人の才能を重視するこの制度を導入しました。これにより、家柄が低くても能力のある者が朝廷の重要な役人として活躍できる道が開かれ、官僚機構の整備が図られました。

- 問1 日本最古の銅銭とされる「富本銭」に関する説明として、歴史的な背景や事実に基づいた適切な記述はどれですか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
1. 室町時代に足利義満が明との貿易を行うために、中国から輸入して国内の市で使用させた。
 2. 天武天皇の時代に製造され、近年の遺跡調査によって和同開珎よりも古いことが確認された。
 3. 元明天皇が平城京への遷都に合わせて発行し、役人の給与として初めて全国に普及した。
 4. 平安時代に唐から輸入された貨幣をモデルにして、日本国内で初めて流通した鉄銭である。
- 問2 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が、中国の進んだ制度や文化を取り入れるために派遣した使節の名称として正しいものを選択してください。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 遣隋使
 2. 遣新羅使
 3. 遣唐使
 4. 遣明使
- 問3 大宝律令が制定されたことによる政治の変化について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
1. 武士が領地を支配する上での基準を示すため、裁判の公平さを期する仕組みが初めて全国的に整備された。
 2. 天皇の命令を文書にする役所や圖書の管理を行う役所が設置されるなど、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。
 3. 氏姓制度を廃止し、地方の豪族が持っていた私有地と私有民をすべて国が直接支配する公地公民制が完了した。
 4. 室町幕府が新しい政治の方針を示すために、鎌倉時代の慣習を基にした独自の法典を定めた。
- 問4 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた
 2. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた
 3. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた
 4. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ
- 問5 7世紀の飛鳥時代、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江の戦いにおいてある2つの国の連合軍に大敗しました。この時、日本が対戦した連合軍の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 宋と新羅
 2. 元と高麗
 3. 隋と高句麗
 4. 唐と新羅
- 問6 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。
 2. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。
 3. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。
 4. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
- 問7 中大兄皇子が中心となって進めた「大化の改新」において、目指された政治体制の説明として最も適切なものはどれか、次の中から選びなさい。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 仏教の力を借りて、全国に国分寺を建てることで地方の安定を図る体制
 2. 武士が政治の実権を握り、幕府によって全国の土地を管理する体制
 3. 土地と人々を国家が直接支配する公地公民の原則に基づく、天皇中心の中央集権体制
 4. 有力な豪族が各地を分割して支配し、天皇がその調整役を担う体制
- 問8 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。
 2. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。
 3. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。
 4. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
- 問9 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）によって制定された「憲法十七条」の主な目的として、当時の政治状況から考えて最も適切な説明はどれですか。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
1. 民衆に対して重い税を課すための根拠を示し、国の財政を安定させるため
 2. 役人が政治を行う上での道德的な心がまえを示し、天皇を中心とする国家体制を整えるため
 3. 僧侶に対して厳しい修行を義務付け、仏教の教義を統一して寺院を管理するため
 4. 地方の豪族が所有する土地と人民をすべて天皇に返還させ、公地公民制を確立するため
- 問10 7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 高句麗
 2. 任那
 3. 百済
 4. 新羅
- 問11 律令に基づく統治体制では、全国を「国・郡・里」の単位に分け、中央政府が地方を直接支配する仕組みが整えられました。この時、都から各地方へ派遣され、法や規定に基づいて徴税や裁判などの行政を担った役職の名称として正しいものはどれか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
1. 検非違使
 2. 守護
 3. 地頭
 4. 国司
- 問12 7世紀に中国を統一し、律令と呼ばれる法体系に基づく統治制度を確立して、日本をはじめとする東アジア諸国の国づくりに決定的な影響を与えた帝国を選んでください。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 宋
 2. 漢
 3. 唐
 4. 隋
- 問13 7世紀の朝鮮半島では、唐と新羅が結んで周辺諸国へ勢力を拡大していました。この際、唐・新羅の連合軍によって滅ぼされた国を復興させるため、倭（日本）が救援軍を派遣した国はどこですか。 (2017年 静岡県公立入試 類似)
1. 伽耶（加羅）
 2. 高句麗
 3. 新羅
 4. 百済
- 問14 7世紀後半、日本（倭）は百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。その後、唐や新羅による日本への侵攻に備え、九州北部に位置する政治の拠点「大宰府」を守るために築かれた、大規模な土塁と堀による防衛施設を何といいますか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
1. 水城
 2. 烽火
 3. 多賀城
 4. 防人

答え合わせ・解説

問1	答え 2 天武天皇の時代に製造され、近年の遺跡調査によって和同開珎よりも古いことが確認された。	飛鳥時代の天武天皇が「今より以後、必ず銅銭を用いよ」という詔（みことのり）を出した時期と重なる7世紀後半につくられました。1990年代に奈良県の飛鳥池遺跡から、鋳型などの製作道具とともに大量に発見されたことで、和同開珎よりも古いものであることが定説となりました。広く一般の市場で流通したというよりは、国家の威信を示す目的や儀式的な意味合いが強かったと推測されています。
問2	答え 1 遣隋使	7世紀初め、中国を統一した隋に対して派遣された使節を遣隋使と呼ぶ。当時の倭（日本）は、隋から高度な統治制度や仏教文化を学ぶことを主な目的としていた。後の時代に派遣された「遣唐使」と混同されやすいが、派遣先の王朝名が「隋」であることを確認する必要がある。
問3	答え 2 天皇の命令を文書にする役所や図書の管理を行う役所が設置されるなど、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。	大宝律令の制定により、唐の官制を模した二官八省という中央官庁の仕組みが整えられました。天皇の秘書的な役割を果たす役所（中務省）や図書を管理する役所（図書寮）などが置かれ、法に基づいた組織的な政治運営が行われるようになりました。
問4	答え 2 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問5	答え 4 唐と新羅	663年、日本は同盟関係にあった百済を助けるために水軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）において、当時朝鮮半島で勢力を拡大していた新羅と、それを支援する唐の連合軍に敗北しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。隋は白村江の戦いの以前に滅亡しており、元や高麗は中世（鎌倉時代）の勢力です。
問6	答え 4 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問7	答え 3 土地と人々を国家が直接支配する公地公民の原則に基づく、天皇中心の中央集権体制	それまでは蘇我氏のような有力豪族が強大な権力を持っていましたが、中大兄皇子は中国（唐）の制度を参考に、天皇が全国を直接支配する仕組みを整えようとしていました。この改革の基本方針は、646年に出された「改新の詔」によって示されました。
問8	答え 3 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問9	答え 2 役人が政治を行う上での道徳的な心がまえを示し、天皇を中心とする国家体制を整えるため	聖徳太子は、豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権国家を築くことを目指しました。そのため、憲法十七条は一般の民衆に向けた法律ではなく、国に仕える役人（官吏）に対し、和の精神や仏教の尊重、そして天皇の命令への服従といった政治的な道徳を説いたものです。
問10	答え 3 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問11	答え 4 国司	律令体制のもとでは、中央から派遣された「国司」が、各地方の政治を担当しました。現在の地名に残る「国領」などの言葉は、国司が管理した土地に由来することが多く、地方豪族が私有地を支配する形態から、国家が土地と人民を直接支配する「公地公民」の原則に基づく体制へと移行したことを示しています。
問12	答え 3 唐	この帝国は、隋が短期間で滅びた後に中国を再統一し、約300年にわたって繁栄しました。日本は遣唐使を派遣して、その優れた政治制度や仏教文化、都市計画などを積極的に取り入れ、律令国家としての基盤を固めていきました。
問13	答え 4 百済	飛鳥時代、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を強め、660年に百済を滅ぼしました。日本（倭）は古くから交流のあった百済の遺民から救援を求められ、中大兄皇子らの指揮のもと、百済復興のために大軍を送りました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗し、百済復興の計画は失敗に終わりました。
問14	答え 1 水城	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭国は、大陸からの報復による侵攻を強く警戒しました。九州の政治・外交の要所であった大宰府を防御するため、その北側に全長約1.2km、高さ約10mにも及ぶ巨大な土塁を築き、博多湾側には水を湛えた堀を設けました。これを水城と呼び、日本の古代国家における防衛体制の整備を象徴する遺構となっています。

- 問1 7世紀から8世紀にかけての律令国家形成期の出来事について、天武天皇の事績として正しい記述はどれか。 (2022年 大分県公立入試 類似)
1. 唐と新羅の連合軍に大敗した白村江の戦いを受けて、九州沿岸に防人や水城を配置して国防を強化した。
 2. 遣隋使を派遣して大陸の進んだ制度を学び、仏教を政治の柱とするために四天王寺や法隆寺を建立した。
 3. 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。
 4. 都を近江大津宮に遷し、日本最古の戸籍とされる庚午年籍を作成して、国民の把握に努めた。
- 問2 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた
 2. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた
 3. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた
 4. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ
- 問3 舒明天皇や皇極天皇の流れを汲む天皇家において、中大兄皇子（天智天皇）と中臣鎌足が大化の改新を進めた後の時代に起きた「壬申の乱」の説明として正しいものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 唐・新羅の連合軍に敗北したことをきっかけに、国内の防衛体制を整えるために起きた争い。
 2. 後白河法皇の後継者問題をめぐり、源氏と平氏が対立して京都で発生した大規模な戦乱。
 3. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を倒して実権を握った争い。
 4. 蘇我氏の独裁的な政治に不満を持った皇族たちが、宮中で蘇我入鹿を暗殺した事件。
- 問4 律令国家が戸籍を作成し、すべての人々に「口分田」を分け与える「班田収授の法」を実施した最大の目的は何ですか。当時の政治方針に深く関わる理由を説明したものを選んでください。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則を確立し、税を確実に徴収するため。
 2. 農民の不満を解消するために、重い税の負担をなくして土地を自由に売買させるため。
 3. 大陸との戦争に備えるため、すべての土地を軍事基地として活用しやすくするため。
 4. 地方の豪族に土地の私有を認めることで、中央政府への忠誠心を高めさせるため。
- 問5 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを一つ選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 役人が職務を行ううえで心構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。
 2. 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。
 3. 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。
 4. 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。
- 問6 645年に始まった大化の改新では、天皇を中心とする新しい国家体制の構築が目指されました。この改革において、遣隋使や遣唐使として中国に渡り、大陸の進んだ政治制度や法律を学んで帰国した留学生や学問僧が任命された、政治の助言を行う重要な役職の名称として正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 執権
 2. 国博士
 3. 検非違使
 4. 防人
- 問7 日本の税の歴史をたどる資料において、その出発点として紹介されるのが701年に完成した「大宝律令」です。この法令によって定められた、都での労役の代わりに布を納める「庸」や、各地の特産物を納める「調」といった税制度について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 山口県公立入試 類似)
1. 「調」は、土地の面積に応じて全ての耕作者に一律で課せられる税であった
 2. 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた
 3. 税を納めるために都へ向かう際の食料や旅費は、すべて国から支給されていた
 4. 「庸」は、収穫した稲の一定割合を地方の役所に納めるものであった
- 問8 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。
 2. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。
 3. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。
 4. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
- 問9 飛鳥時代に建立された豪族寺院について、その特徴を正しく述べたものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
1. 平安貴族が浄土への憧れから、寝殿造の様式を取り入れた華麗な庭園とともに建てた。
 2. 遣唐使によってもたらされた最新の禅宗を広めるため、幕府の全面的な支援を受けて建てた。
 3. 国ごとに国分寺と対になる形で設置され、女性の僧侶が修行する場所として建てた。
 4. 聖徳太子による仏教振興を背景に、豪族たちが勢力の大きさをアピールするために建てた。
- 問10 7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 高句麗
 2. 百済
 3. 任那
 4. 新羅
- 問11 聖徳太子（厩戸皇子）が「十七条の憲法」を制定した背景には、当時の政治的な課題を解決する狙いがありました。この法令を通じて太子が実現しようとした「国家のあり方」として、最もふさわしい説明はどれですか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家
 2. 海外の十字軍派遣の動きに合わせ、キリスト教を国教として受け入れる宗教的な国家
 3. 地方の農民に土地の私有権を認め、それぞれの生活を安定させることで成り立つ地方分権的な国家
 4. 国民の選挙によって選ばれた代表者が、議会で法律を決定する立憲民主主義的な国家
- 問12 7世紀の飛鳥時代、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江の戦いにおいてある2つの国の連合軍に大敗しました。この時、日本が対戦した連合軍の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 隋と高句麗
 2. 宋と新羅
 3. 元と高麗
 4. 唐と新羅
- 問13 7世紀、日本では中大兄皇子らが政治改革を進める一方で、朝鮮半島の情勢変化に対応した外交が行われました。唐によって滅ぼされた友好国の復興を支援するために倭（日本）が朝鮮半島へ大軍を派遣した出来事について、その目的と対戦相手の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. 高句麗の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った
 2. 新羅の領土拡大を阻止するため、唐の軍隊と単独で戦った
 3. 百済の再興を支援するため、元（モンゴル）の軍隊と戦った
 4. 百済の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った

答え合わせ・解説

問1	答え 3 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。	天武天皇は、それまで「大王」と呼ばれていた君主の称号を「天皇」へと定め、国号を「日本」とした時期の人物と考えられています。また、歴史書である「古事記」や「日本書紀」の編纂を命じたのも彼であり、国家としてのアイデンティティを確立しようとした点が大きな特徴です。他の選択肢は、天智天皇（近江大津宮、庚午年鑑、白村江の戦い）や聖徳太子（遣隋使、法隆寺）に関する内容です。
問2	答え 2 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問3	答え 3 天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を倒して実権を握った争い。	壬申の乱は、天智天皇の死後にその弟である大海人皇子と、後継者とされていた息子の大友皇子の間で起きた、古代最大の内乱です。この争いは、天智天皇が進めた近江大津宮での政治に対する地方豪族の不満なども背景にあり、最終的に吉野で挙兵した大海人皇子が勝利しました。これにより、勝利した天武天皇による強力な天皇専制政治が実現することとなりました。
問4	答え 1 土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則を確立し、税を確実に徴収するため。	大化の改新以降、政府はそれまで有力豪族が支配していた土地と人民を、国家が直接支配する「公地公民」の仕組みへと転換しようとしていました。口分田を与えて戸籍で管理することで、誰がどこで耕作しているかを把握し、租・庸・調などの税や防人などの兵役を課す基盤を作ることが目的でした。
問5	答え 3 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。
問6	答え 2 国博士	飛鳥時代の海外交流に関する記録によれば、遣隋使や遣唐使に同行して大陸へ渡った人々の中には、長期間滞在して現地の高度な統治システムを学ぶ者がいました。彼らは帰国後、その知識を高く評価されて「国博士（くにのはかせ）」という役職に就き、大化の改新における律令国家建設に向けた理論的な指導者として活躍しました。
問7	答え 2 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた	大宝律令のもとで課せられた「庸」や「調」は、負担者自身が都まで運搬する義務（運脚）を伴っており、農民にとって極めて重い負担となっていました。なお、収穫した稲を納めるのは「租」であり、食料などの旅費も自己負担でした。
問8	答え 3 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問9	答え 4 聖徳太子による仏教振興を背景に、豪族たちが勢力の大きさをアピールするために建てた。	飛鳥時代、聖徳太子が仏教を厚く保護し政治の柱としたことで、蘇我氏などの豪族もこれに倣いました。当時、大規模な寺院を建立することは、高度な建築技術や大陸の文化を所有していることの証明であり、自らの権威を内外に示す手段でもありました。奈良時代の聖武天皇による国分寺建立が「国家の安泰」を目的とした公的な性格を持つのに対し、飛鳥時代の寺院は「豪族の権威付け」という私的な性格が強いのが特徴です。
問10	答え 2 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問11	答え 1 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家	当時の日本は有力な豪族が独自の力を持ち、勢力争いを繰り返していました。聖徳太子はこうした状況を打破し、中国（隋など）のような組織立った国家を作るため、役人の地位を明確にする冠位十二階と、その倫理規定である十七条の憲法をセットで運用しました。これにより、豪族たちを「天皇に仕える役人」へと再編し、国家としての統一感を高めようとしたのです。
問12	答え 4 唐と新羅	663年、日本は同盟関係にあった百済を助けるために水軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）において、当時朝鮮半島で勢力を拡大していた新羅と、それを支援する唐の連合軍に敗北しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。隋は白村江の戦いの以前に滅亡しており、元や高麗は中世（鎌倉時代）の勢力です。
問13	答え 4 百済の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされると、倭（日本）は友好国であった百済の遺臣から救援を求められました。中大兄皇子は百済を再興させるために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、663年に白村江（はくすきのえ）で唐・新羅の連合軍と衝突し、倭の水軍は壊滅的な打撃を受けて大敗しました。この敗北は、その後の日本の国内体制の整備や防衛強化に大きな影響を与えました。

- 問1 白村江の戦いにおける大敗後、大和政権が急速に中央集権体制の確立（公地公民や律令の整備）を急いだ背景として、当時の東アジア情勢から考えられる理由を説明したものとして適切なものはどれですか。（2025年 奈良県公立入試 類似）
1. 平氏や源氏といった武士団の台頭を抑え、天皇中心の軍隊を再編する必要があったから。
 2. 朝鮮半島での利権を完全に放棄し、国内の開墾事業に専念して食糧増産を目指したから。
 3. 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることで精神的な団結を図ったから。
 4. 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。
- 問2 8世紀の初め、現在の群馬県にあたる地域に建てられた「多胡碑」には、朝廷の命令によって新たな郡が設置されたことが記されています。このように、唐の制度にならって定められた法律に基づき、地方の行政区画を整備することで形成された、天皇を中心とする中央集権的な国家の仕組みを何といいますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
1. 律令国家
 2. 守護・地頭制
 3. 封建国家
 4. 幕藩体制
- 問3 飛鳥時代から奈良時代にかけて確立された、地方を統治するための仕組みについて、中央から派遣された役人である「国司」の説明として最も適切なものはどれか。（2021年 宮城県公立入試 類似）
1. 明治時代に政府から任命され、旧藩の区域を廃して新たに置かれた県の長官となった。
 2. 中央の都から派遣され、一定の任期を持って地方の行政や裁判、軍事を担った。
 3. もともとその土地を治めていた有力な豪族が任命され、実質的な徴税実務を世襲で担った。
 4. 鎌倉幕府によって各国の土地管理や治安維持のために派遣され、年貢の徴収を行った。
- 問4 飛鳥時代、聖徳太子が仏教を政治に取り入れた影響を受け、各地の有力な一族が競って寺院を建立しました。このような寺院建立の主な目的や当時の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 島根県公立入試 類似）
1. 武士が戦乱の世を逃れ、極楽往生を願って山奥に阿弥陀堂を建立した。
 2. 聖武天皇が仏教の力によって国家の災いを取り除こうと考え、全国に一律の規格で建立した。
 3. 地方を治める国司が、天皇の代わりのために新しい行政拠点として建立した。
 4. 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。
- 問5 聖徳太子が小野妹子を隋へ派遣した目的として、当時の日本の政治状況や国づくりの方針を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. 大宝律令を完成させるために、中国の法律の専門家を日本に招く交渉を行うため
 2. 中国の進んだ制度や文化を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権的な国づくりを進めるため
 3. 卑弥呼がかつて受けた「親魏倭王」のような称号を隋の皇帝から授かり、国内の統治を安定させるため
 4. 菅原道真の建議に基づき、危険な渡海を伴う外交を縮小するための事前調査を行うため
- 問6 飛鳥時代に建立された豪族寺院について、その特徴を正しく述べたものはどれですか。（2021年 島根県公立入試 類似）
1. 平安貴族が浄土への憧れから、寝殿造の様式を取り入れた華麗な庭園とともに建てた。
 2. 国ごとに国分寺と対になる形で設置され、女性の僧侶が修行する場所として建てた。
 3. 聖徳太子による仏教振興を背景に、豪族たちが勢力の大きさをアピールするために建てた。
 4. 遣唐使によってもたらされた最新の禅宗を広めるため、幕府の全面的な支援を受けて建てた。
- 問7 天武天皇が進めた政策のうち、国家の正当性を示し、天皇の権威を強化する目的で行われた事業として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大阪府公立入試 類似）
1. 律令制度を完成させるため、日本で最初の本格的な法律である大宝律令を制定した。
 2. 新しい政治の形を整えるため、唐の長安をモデルとした平城京への遷都を断行した。
 3. 仏教の力で国家の混乱を鎮めるため、東大寺の大仏造立や全国への国分寺建立を命じた。
 4. 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。
- 問8 律令制度に基づく中央官制において、神事をつかさどる神祇官とともに、政治の最高機関として位置づけられた組織を何といいますか。その下に八省を従え、実務を統括した名称を答えなさい。（2024年 山梨県公立入試 類似）
1. 摂政
 2. 評定衆
 3. 太政官
 4. 六波羅探題
- 問9 ある法令の条文には「一に曰く、和を以て貴しとなし…」「二に曰く、篤く三宝を敬へ…」という記述が見られる。この法令に関する説明として最も適切なものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）
1. 天武天皇らが編纂し、中国にならって政治の仕組みを定めた。
 2. 北条泰時が制定し、武士の慣習に基づいて裁判の基準を定めた。
 3. 聖徳太子が制定し、役人が守るべき道徳や心構えを示した。
 4. 中大兄皇子が制定し、全ての土地と人民を公のものとした。
- 問10 法隆寺の金堂に見られる、柱の中ほどに膨らみを持たせる「エンタシス」という技法や、その建築様式について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
1. 日本独自の風土に合わせて発展した、優雅な国風文化の特徴を示している。
 2. ギリシャなどの西方文化の影響がシルクロードを経て伝わった、飛鳥文化の特徴を示している。
 3. 唐の先進的な文化を直接取り入れた、国際色豊かな天平文化の特徴を示している。
 4. 禅宗の影響を受け、簡素で精神性を重んじた東山文化の特徴を示している。
- 問11 飛鳥時代、有力な豪族として聖徳太子（厩戸皇子）と協力し、仏教を広めるとともに天皇を中心とした国づくりを進めた人物はだれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 蘇我入鹿
 2. 蘇我稻目
 3. 物部守屋
 4. 蘇我馬子
- 問12 7世紀初頭の飛鳥時代に建立された、現存する世界最古の木造建築物として知られる、この時代の仏教文化を代表する寺院の名称を選びなさい。（2018年 福岡県公立入試 類似）
1. 延暦寺
 2. 東大寺
 3. 法隆寺
 4. 平等院鳳凰堂
- 問13 天智天皇が「庚午年籍（こうごねんじゃく）」と呼ばれる日本で最初の全国的な戸籍を作成した最大の目的は、どのような点にありましたか。当時の社会背景を踏まえて、最も適切な理由を選びなさい。（2018年 埼玉県公立入試 類似）
1. 全国の人民の名前や住所を把握することで、公平に土地を分け与えるとともに、兵役や税を確実に課するための基礎とするため。
 2. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院に住む僧侶の数や修行の状況を把握して管理するため。
 3. 大規模な干拓事業や東大寺の建立にあたり、必要な労働力を確保するために浮浪化した農民を強制的に連れ戻すため。
 4. 遣隋使や遣唐使として渡航する優秀な人材を見極めるため、氏姓制度に基づいた豪族の家系図を整理するため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 唐や新羅による侵攻の脅威に対抗するため、国力を結集し強力な国家を創る必要があったから。	対外的な軍事的敗北は、当時の政権にとって国家滅亡の危機でもありました。唐や新羅の侵攻に備えるためには、軍備を整えるだけでなく、戸籍を作成して徴兵や徴税を確実に行える強力な政府（中央集権国家）を作る必要がありました。これが、天智天皇から天武天皇、持統天皇へと続く律令国家建設の大きな動機となりました。
問2	答え 1 律令国家	7世紀後半から8世紀にかけて、日本は中国（唐）の高度な統治システムを取り入れ、刑罰を定めた「律」と、政治の仕組みを定めた「令」を整備しました。これにより、全国を国・郡・里といった行政区画に分け、中央から役人を派遣して土地と人民を直接支配する中央集権体制が確立されました。多胡碑はこの仕組みが地方まで浸透していたことを示す資料です。
問3	答え 2 中央の都から派遣され、一定の任期を持って地方の行政や裁判、軍事を担った。	律令制における地方統治の仕組みでは、中央集権体制を強化するために、最上位の行政単位である「国」に都から国司が派遣された。国司は任期が終われば都に戻る仕組みとなっており、現地の豪族が任命され世襲された「郡司」とは、役割や身分が明確に区別されていた。なお、地頭（鎌倉時代）や守護大名（室町時代）、県令（明治時代）とは、設置された時代や目的が異なる。
問4	答え 4 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。	飛鳥時代には、法隆寺や飛鳥寺に代表されるように、聖徳太子や蘇我氏などの有力な豪族が最新の文化である仏教を取り入れ、その勢力を誇示するために寺院を建立しました。これらは「豪族寺院（氏寺）」と呼ばれ、特定の氏族の繁栄を祈る性質が強いものでした。一方、選択肢にある「国家を守るために全国に建立された寺院」は、奈良時代の聖武天皇による国分寺・国分尼寺を指しており、建立の主体や目的が異なります。
問5	答え 2 中国の進んだ制度や文化を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権的な国づくりを進めるため	当時の日本は、豪族が強い勢力を持つ体制から、天皇を中心とした組織的な国家への転換を目指していました。冠位十二階や十七条の憲法の制定と並行して行われた遣隋使の派遣は、中国の官僚制や仏教精神を学ぶことで、強力な国家体制を築くための重要な手段でした。なお、大宝律令は8世紀、遣唐使の停止（菅原道真の建議）は9世紀の出来事であり、卑弥呼は3世紀の人物です。
問6	答え 3 聖徳太子による仏教振興を背景に、豪族たちが勢力の大きさをアピールするために建てた。	飛鳥時代、聖徳太子が仏教を厚く保護し政治の柱としたことで、蘇我氏などの豪族もこれに倣いました。当時、大規模な寺院を建立することは、高度な建築技術や大陸の文化を所有していることの証明であり、自らの権威を内外に示す手段でもありました。奈良時代の聖武天皇による国分寺建立が「国家の安泰」を目的とした公的な性格を持つのに対し、飛鳥時代の寺院は「豪族の権威付け」という私的な性格が強いのが特徴です。
問7	答え 4 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。	天武天皇は、壬申の乱を経て確立した自らの政権の正統性を国内外に示すため、国家の歴史編纂を命じました。これが後に『古事記』や『日本書紀』として完成します。また、この時期に「天皇」という称号や「日本」という国号が本格的に使われ始めたと考えられており、これらは中央集権体制を象徴する重要な動きとなりました。
問8	答え 3 太政官	律令国家の統治機構は「二官八省」と呼ばれます。その中核である太政官は、中務省や式部省といった八つの実務機関（八省）を指揮し、国の政務全般を決定する最高行政機関としての役割を果たしました。
問9	答え 3 聖徳太子が制定し、役人が守るべき道徳や心構えを示した。	提示された条文は「十七条の憲法」のものである。これは豪族たちに対して、争いをやめて天皇に服従し、役人として真面目に働くよう求めた道徳的訓戒の意味合いが強い。「三宝」とは仏・法・僧（仏教）を指す。他の選択肢はそれぞれ公地公民（改新の詔など）、律令、御成敗式目の説明である。
問10	答え 2 ギリシャなどの西方文化の影響がシルクロードを経て伝わった、飛鳥文化の特徴を示している。	法隆寺の柱に見られる膨らみは、古代ギリシャの神殿などに見られる「エンタシス」と呼ばれる技法との関連が指摘されています。これは、当時の日本が朝鮮半島や中国だけでなく、シルクロードを通じて遠く西方の文化の影響も受けていたことを物語る、日本最古の仏教文化である飛鳥文化の重要な事例です。
問11	答え 4 蘇我馬子	蘇我馬子は、仏教の受容をめぐる対立していた物部守屋を倒し、一族の繁栄を築きました。聖徳太子とともに冠位十二階や十七条の憲法の制定に関わり、中央集権的な国家体制の基礎を作りました。選択肢にある蘇我入鹿は馬子の孫にあたり、大化の改新（乙巳の変）で滅ぼされた人物です。
問12	答え 3 法隆寺	飛鳥時代に聖徳太子（厩戸王）によって建立されたとされる寺院で、現存する世界最古の木造建築物としてユネスコの世界文化遺産にも登録されています。この時代の文化は飛鳥文化と呼ばれ、中国や朝鮮半島など大陸の技術や仏教の影響を強く受けているのが特徴です。
問13	答え 1 全国の人民の名前や住所を把握することで、公平に土地を分け与えるとともに、兵役や税を確実に課すための基礎とするため。	大化の改新から始まった「公地公民」の原則を具体化するためには、政府が直接人民を把握する必要がありました。天智天皇が作成した庚午年籍は、人民に口分田を与えて耕作させ（班田収授）、代わりに税（租・庸・調）や兵役（防人など）を課すための台帳として機能しました。特に当時の日本は唐や新羅の脅威にさらされていたため、兵力を確保するための人民把握は急務でした。

- 問1 飛鳥時代、聖徳太子によって607年に派遣され、隋の皇帝である煬帝に謁見したとされる代表的な人物は誰ですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 中臣鎌足 2. 小野妹子 3. 蘇我馬子 4. 鑑真
- 問2 日本最古級の橋とされる京都府宇治市の宇治橋には、ある人物が建立に関わったという伝承があります。大化の改新から即位に至る一連の政治改革を行ったこの人物の、政治の目的や動向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 京都府公立入試 類似)
1. 摂政として推古天皇を助け、冠位十二階や十七条の憲法を制定することで、家柄にとられない人材登用と役人の心構えを説いた。 2. 隠岐から脱出して鎌倉幕府を滅ぼした後、建武の新政を開始して、公家が政治の中心となる仕組みを復活させようとした。 3. 中大兄皇子として政治を主導し、土地と人民を国家が直接支配する公地公民などの改革を進め、天皇への権力集中を図った。 4. 壬申の乱で勝利した後に即位し、大規模な都である藤原京の造営や、律令制度の完成に向けた準備を本格化させた。
- 問3 日本の税の歴史をたどる資料において、その出発点として紹介されるのが701年に完成した「大宝律令」です。この法令によって定められた、都での労役の代わりの布を納める「庸」や、各地の特産物を納める「調」といった税制度について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 山口県公立入試 類似)
1. 「庸」は、収穫した稲の一定割合を地方の役所に納めるものであった 2. 税を納めるために都へ向かう際の食料や旅費は、すべて国から支給されていた 3. 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた 4. 「調」は、土地の面積に応じて全ての耕作者に一律で課せられる税であった
- 問4 天武天皇の時期に作成が開始された「庚午年籍」などの戸籍は、中央集権体制を築く上でどのような目的で作成されましたか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため 2. 地方の豪族に対して土地の私有権を認め、その忠誠を確保するため 3. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院と僧侶の数を管理するため 4. 諸外国との交易を円滑にするため、都市部の商人層の構成を調査するため
- 問5 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。 2. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。 3. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。 4. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
- 問6 7世紀前半の東アジアでは、中国を統一した唐が、朝鮮半島の北部に位置する国を攻撃するなど、軍事的な緊張が高まっていました。このような国際情勢の変化は、日本において強力な中央集権国家を目指す大化の改新が起こる大きな要因となりました。このとき、唐の攻撃を受けた朝鮮半島北部の国名を答えなさい。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 渤海 2. 新羅 3. 高句麗 4. 百濟
- 問7 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。 2. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。 3. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。 4. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
- 問8 天智天皇の死後に発生した大規模な後継者争いである壬申の乱に勝利し、即位したのち、天皇を中心とする強力な中央集権国家の体制を整えた人物を次のの中から選びなさい。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
1. 聖武天皇 2. 天武天皇 3. 推古天皇 4. 桓武天皇
- 問9 7世紀の東アジアの情勢について、朝鮮半島の北部に位置する国家が唐から大規模な軍事攻撃を受けたことで、日本（倭）を含む周辺諸国の国際的な緊張が高まった状況を説明した文章があります。この文章の中で、唐の攻撃の対象となり、東アジアの緊張の一因となった国家として正しいものを選びなさい。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 加耶（任那） 2. 新羅 3. 百濟 4. 高句麗
- 問10 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた 2. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた 3. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ 4. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた
- 問11 飛鳥文化における寺院建立の背景について、当時の政治状況と関連付けて説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 遣唐使によってもたらされた最新の浄土信仰が民衆の間に広まり、現世利益を求めて建立が急増した。 2. 国ごとに国分寺や国分尼寺を建立することを命じる詔が出され、地方豪族が競って寺を建てた。 3. 源平の争乱によって焼失した旧来の寺院を再建するため、重源らが東大寺の勧進を行ったことで広まった。 4. 聖徳太子や蘇我氏が、仏教を国家統治の柱として導入し、自らの権威や先進性を国内外に示すために建立した。
- 問12 日本の歴史における時代区分と出来事の前後関係について説明した文として、最も適当なものを次のうちから1つ選びなさい。 (2021年 宮崎県公立入試 類似)
1. 鎌倉時代に平清盛が幕府を開き、その後、安土桃山時代にフビライ・ハンによる元寇が起こった。 2. 飛鳥時代にフビライ・ハンが来來し、その後、室町時代に平清盛が太政大臣に就任した。 3. 奈良時代に豊臣秀吉が太閤検地を行い、その後、安土桃山時代に平清盛が政権を握った。 4. 平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進し、その後、鎌倉時代にフビライ・ハン率いる元が日本へ押し寄せた。
- 問13 645年に起こった政治改革において、中臣鎌足（藤原鎌足）らとともに、権勢を振るっていた蘇我氏を倒し、後に天智天皇として即位した人物は誰ですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
1. 中大兄皇子 2. 大海人皇子 3. 聖徳太子 4. 足利尊氏

答え合わせ・解説

問1	答え 2 小野妹子	607年に第2回の遣隋使として派遣されたのが小野妹子です。彼は隋の進んだ文化や政治制度を日本に持ち帰り、後の冠位十二階や十七条の憲法といった国家体制の整備に大きく貢献しました。選択肢にある蘇我馬子は当時の有力な豪族、中臣鎌足は後の大化の改新で活躍した人物、鑑真は奈良時代に唐から来日した僧侶であり、時代や役割が異なります。
問2	答え 3 中大兄皇子として政治を主導し、土地と人民を国家が直接支配する公地公民などの改革を進め、天皇への権力集中を図った。	宇治橋の伝承に関連する天智天皇（中大兄皇子）は、唐や新羅といった大陸の強国に対抗するため、国内の権力を一つにまとめる必要がありました。そこで、蘇我氏という有力豪族を打倒し、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」を掲げ、中央集権体制の確立を目指しました。
問3	答え 3 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた	大宝律令のもとで課せられた「庸」や「調」は、負担者自身が都まで運搬する義務（運脚）を伴っており、農民にとって極めて重い負担となっていました。なお、収穫した稲を納めるのは「租」であり、食料などの旅費も自己負担でした。
問4	答え 1 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にを行うための基礎とするため	中央集権国家の確立には、国家が直接人民を支配し、労働力や税を徴収する仕組みが不可欠でした。戸籍（庚午年籍）を作成して全国規模で人民を登録することで、公平かつ確実な徴税や徴兵を可能にし、天皇による統治基盤を強化する狙いがありました。
問5	答え 4 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問6	答え 3 高句麗	聖徳太子の死後、隋に代わって中国を統一した唐は、領土拡大のために朝鮮半島北部の高句麗へ繰り返し遠征を行いました。この強大な帝国の出現と軍事的圧力は、当時の日本にとって大きな脅威となり、国内の結束を固めて天皇中心の強力な国家体制を整える必要性を認識させました。こうした背景から、中大兄皇子らによって大化の改新が断行されることとなりました。
問7	答え 2 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問8	答え 2 天武天皇	天武天皇は、大海人皇子として壬申の乱で大友皇子（天智天皇の子）を破って即位しました。即位後は、官僚組織の整備や「天皇」という称号、「日本」という国号の使用を開始するなど、律令国家としての基盤となる中央集権的な仕組みを強力に推進しました。
問9	答え 4 高句麗	7世紀、朝鮮半島の北部を支配していた高句麗は、中国を統一した隋やそれに続く唐と激しく対立し、度重なる攻撃を受けました。この強力な唐の動きは朝鮮半島全体や日本にも大きな危機感を与え、日本の国内政治が中央集権化へと向かう国際的な背景となりました。新羅は後に唐と結んで、高句麗や百済を滅ぼすことになります。
問10	答え 2 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問11	答え 4 聖徳太子や蘇我氏が、仏教を国家統治の柱として導入し、自らの権威や先進性を国内外に示すために建立した。	当時の政治の中心人物であった聖徳太子や蘇我馬子は、中国や朝鮮半島からの渡来人の技術を活用し、仏教を基盤とした国造りを目指した。寺院の建立は、単なる宗教施設としての役割だけでなく、優れた建築・工芸技術を持つ文明国であることを示す象徴でもあった。
問12	答え 4 平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進し、その後、鎌倉時代にフビライ・ハン率いる元が日本へ押し寄せた。	平清盛は平安時代末期に太政大臣となり、大輪田泊を整備して日宋貿易を進めました。その後、鎌倉時代中期の13世紀後半に、元の皇帝フビライ・ハンによる元寇が起こりました。平清盛の政権獲得（平安時代末期）はフビライ・ハンの侵攻（鎌倉時代）よりも前の出来事となります。
問13	答え 1 中大兄皇子	唐（中国）の制度に習い、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指して行われた改革が大化の改新です。中大兄皇子は蘇我入鹿らを排除することで、有力豪族による政治から、天皇が直接統治する仕組みへと転換を図りました。

- 問1 法隆寺の金堂に安置されている釈迦三尊像に見られる、中央の釈迦如来と左右の脇侍を配置した形式や、中国の北魏様式の影響を受けた特徴を持つ文化の名称として最も適切なものを答えなさい。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|------------|---------|
| 1. 白鳳文化 | 2. 天平文化 | 3. 弘仁・貞観文化 | 4. 飛鳥文化 |
|---------|---------|------------|---------|
- 問2 律令国家の形成過程において「公地公民」という原則が示された目的として、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 仏教の教えに基づき、すべての土地は神仏のものであるとして、寺院が土地を管理する体制を作るため | 2. 農民の開墾意欲を高めるために、新しく耕した土地を永久にその人の私有地として認めるため | 3. 地方の豪族に一定の土地の支配権を残し、朝廷に協力的な姿勢をとらせることで内乱を防ぐため | 4. 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため |
|---|---|--|--|
- 問3 大化の改新の中心人物であった中大兄皇子が、のちに即位して天智天皇となった際に、律令国家の基礎を築く目的で作成した日本最初の全国的な戸籍の名称として正しいものを選びなさい。 (2021年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|-----------|
| 1. 班田収授法 | 2. 庚午年籍 | 3. 庚寅年籍 | 4. 十七条の憲法 |
|----------|---------|---------|-----------|
- 問4 飛鳥時代において、聖徳太子（厩戸王）を摂政に任命し、協力して天皇を中心とした国づくりを進めた日本初の女性天皇は誰ですか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 天武天皇 | 2. 天智天皇 | 3. 持統天皇 | 4. 推古天皇 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問5 飛鳥時代末期の701年に、唐の制度を参考にして制定された、日本で最初の本格的な法典を何といいますか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|---------|---------|
| 1. 十七条の憲法 | 2. 御成敗式目 | 3. 建武式目 | 4. 大宝律令 |
|-----------|----------|---------|---------|
- 問6 古代日本の国家形成の過程において、天智天皇の後継をめぐる混乱を経て、中央集権的な統治が強化されたことを示す歴史上の出来事はどれか。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| 1. 白村江の戦い | 2. 保元の乱 | 3. 壬申の乱 | 4. 承久の乱 |
|-----------|---------|---------|---------|
- 問7 7世紀後半、日本は唐や新羅による侵攻の脅威に備え、九州の大宰府周辺に「水城（みづき）」と呼ばれる大規模な土塁や、山城（朝鮮式山城）を築きました。これらの防御施設の築城にあたって、高度な土木技術を伝え、建設を指導した渡来人たちは、どこの国から来た人々が中心であったとされていますか。 (2021年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 高麗 | 2. 新羅 | 3. 百濟 | 4. 渤海 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問8 645年に中臣鎌足らと協力して蘇我氏を倒し、土地や人々を国家が直接支配する「公地公民」の仕組みを導入するなど、天皇中心の国づくりを目指した人物は誰ですか。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 徳川家康 | 2. 聖徳太子 | 3. 中大兄皇子 | 4. 足利尊氏 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問9 7世紀から8世紀にかけて、日本が天皇を中心とした中央集権的な国家体制（律令国家）を形成していく歴史的な流れを、時系列に沿って正しく説明しているものはどれですか。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 大宝律令の完成によって国家の仕組みが整った後、その基本精神を広めるために聖徳太子が十七条の憲法を制定し、さらに中大兄皇子が大化の改新を断行した。 | 2. 中大兄皇子らが大化の改新によって蘇我氏を倒した後、聖徳太子が大陸の制度を取り入れた冠位十二階を制定し、それらが最終的に大宝律令としてまとめられた。 | 3. 聖徳太子が冠位十二階や十七条の憲法を定めて天皇の権威を高め、その後、中大兄皇子らが大化の改新を開始し、8世紀初頭に大宝律令が完成して体制が整った。 | 4. 聖徳太子が十七条の憲法を制定した直後、これに反発した中大兄皇子らが大化の改新を起こして律令国家を否定したが、8世紀に再び大宝律令が制定された。 |
|---|--|--|--|
- 問10 法隆寺の建築に見られる特徴や背景について説明したものとして、歴史的事実に基づき最も適切な記述を選んでください。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 室町時代の文化背景をもとに、現代の和風建築の原型となった「書院造」の様式で建てられている。 | 2. 鎌倉時代に武士の間で流行した禅宗の影響を受け、装飾を排した質実剛健な造りとなっている。 | 3. 平安時代の貴族たちが好んだ日本独自の様式である「寝殿造」を取り入れ、庭園との調和を重視している。 | 4. 中国や朝鮮半島など大陸からの影響を強く受けた、日本で最初の本格的な仏教文化の特色を色濃く残している。 |
|--|--|---|---|
- 問11 天武天皇の時期に作成が開始された「庚午年籍」などの戸籍は、中央集権体制を築く上でどのような目的で作成されましたか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実に行うための基礎とするため | 2. 地方の豪族に対して土地の私有権を認め、その忠誠を確保するため | 3. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院と僧侶の数を管理するため | 4. 諸外国との交易を円滑にするため、都市部の商人層の構成を調査するため |
|--|-----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
- 問12 645年に始まった政治改革の資料において、中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を打倒し、新たな政治体制を築こうとする記述が見られます。この一連の改革によって日本で初めて元号が導入された背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。 | 2. 蘇我氏が代々使用してきた独自の暦を廃止し、仏教の教えに基づいた新しい時間管理を行うため。 | 3. 有力な豪族たちが交代で元号を決める権利を持つことで、貴族政治の安定を図るため。 | 4. 中国の唐に対して完全な服従を誓い、唐と同じ元号を使用することで安全保障を得るため。 |
|---|---|--|--|
- 問13 7世紀初め、聖徳太子（厩戸王）は中国の王朝との対等な外交を求め、進んだ制度や文化を取り入れるために使節を派遣しました。この使節の名称と、代表として派遣された人物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|---------------------|--------------------|------------------|
| 1. 遣明使として派遣された足利義満 | 2. 遣唐使として派遣された阿倍仲麻呂 | 3. 遣隋使として派遣された小野妹子 | 4. 遣唐使として派遣された鑑真 |
|--------------------|---------------------|--------------------|------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 飛鳥文化	釈迦三尊像は鞍作鳥（止利仏師）によって作られたとされる、飛鳥文化を代表する金銅像です。この時代の彫刻は、大陸との交流を背景に中国の北魏などの様式を取り入れており、アーモンド形の目や「アルカイック・スマイル」と呼ばれるかすかな微笑みが特徴です。これは日本で最初に開花した本格的な仏教文化の特色を示しています。
問2	答え 4 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため	公地公民は、天皇を中心とした中央集権体制を確立するために導入された仕組みです。特定の豪族が土地や人民を私物化することを防ぎ、朝廷が全国の戸籍を作成して人民に土地を分け与える（班田収授法）ことで、租・庸・調などの税を安定的に徴収し、国家運営の財源を確保することを狙いとしていました。
問3	答え 2 庚午年籍	天智天皇は、670年に日本で初めてとなる全国的な戸籍である「庚午年籍（こうごねんじやく）」を作成しました。これは、国家が民衆の氏姓や人数を正確に把握することで、安定した税の徴収や徴兵を行うための重要な基盤となりました。後の天武天皇の時代に作られた「庚寅年籍」と混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 4 推古天皇	592年に即位した推古天皇は、甥である聖徳太子を「摂政」という役職に就け、共同で政治を行いました。この時期には冠位十二階や十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣など、中国（隋）の制度を取り入れた重要な政策が次々と打ち出されました。
問5	答え 4 大宝律令	文武天皇の時代である701年に制定されました。これによって、刑罰に関する規定である「律」と、政治の仕組みに関する規定である「令」が整い、天皇を中心とする中央集権的な国家体制（律令国家）が確立されることとなりました。
問6	答え 3 壬申の乱	天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を倒した672年の壬申の乱が正解です。この勝利によって大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇の称号や「日本」という国号を使い始めるなど、律令国家としての骨組みを固めていきました。
問7	答え 3 百済	663年の白村江の戦いで日本（倭）と百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に敗北した後、日本は大陸からの報復的な侵攻を恐れて国防を強化しました。この際、日本に亡命してきた百済の人々が持つ高度な技術が、水城や大野城といった堅固な防御施設の築城に活用されました。
問8	答え 3 中大兄皇子	蘇我氏を倒した「乙巳の変」から始まる一連の政治改革は「大化の改新」と呼ばれます。中大兄皇子は中臣鎌足（後の藤原鎌足）とともに、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家が管理する体制への転換を図りました。
問9	答え 3 聖徳太子が冠位十二階や十七条の憲法を定めて天皇の権威を高め、その後、中大兄皇子らが 大化の改新を開始し、8世紀初頭に大宝律令が完成して体制が整った。	日本の古代国家形成は、7世紀初頭の聖徳太子（厩戸王）による推古天皇の摂政としての政治改革から始まります。太子は冠位十二階や十七条の憲法を定め、家柄ではなく能力を重視する官僚制や道徳的規範を導入しました。その後、7世紀半ば（645年）には中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏を打倒して大化の改新に着手し、公地公民制などの改革を進めました。これらの改革の集大成として、8世紀初頭の701年に大宝律令が完成し、法律に基づき官僚が全国を統治する律令国家の体制が確立されました。
問10	答え 4 中国や朝鮮半島など大陸からの影響を強く受けた、日本で最初の本格的な仏教文化の特色を色濃く残している。	法隆寺が建立された飛鳥時代は、仏教の伝来とともに、中国（南北朝時代や隋）や朝鮮半島の百済などの技術が積極的に導入された時期です。法隆寺の柱に見られる「エンタシス（中央のふくらみ）」などの特徴は、遠くギリシャの神殿建築の影響がシルクロードを経て伝わったものと言われており、当時の国際色豊かな文化背景を示しています。寝殿造や書院造は、より後世の時代に成立した建築様式です。
問11	答え 1 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため	中央集権国家の確立には、国家が直接人民を支配し、労働力や税を徴収する仕組みが不可欠でした。戸籍（庚午年籍）を作成して全国規模で人民を登録することで、公平かつ確実な徴税や徴兵を可能にし、天皇による統治基盤を強化する狙いがありました。
問12	答え 1 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。	元号の制定は、単なる年数の数え方の変更ではなく、その土地を支配する君主が時間をも支配するという「空間と時間の主権」を象徴する行為でした。大化の改新において中大兄皇子らが日本初の元号「大化」を定めたのは、それまで力を持っていた蘇我氏などの有力豪族を抑え、天皇を中心とした律令国家を形成しようとする強い政治的意志の表れです。
問13	答え 3 遣隋使として派遣された小野妹子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行い、中国の「隋」に「遣隋使」を派遣しました。その代表として知られるのが小野妹子です。鑑真は唐の僧侶であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として唐に渡った人物です。また、足利義満は室町時代の人物であり、時代が異なります。

- 問1 古代の日本が、唐などの中国の国家体制を手本として「律令」を導入した目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|-------------------------------------|---|
| 1. 仏教を国教と定め、寺院が政治の全権を握ることで民衆の不満を抑えるため | 2. 武士が領地を支配する権利を法的に保障し、幕府による全国支配を安定させるため | 3. 地方の有力な豪族に、独自の軍隊と土地支配の権限を公式に認めるため | 4. 天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築き、国内外に対して独立国家としての地位を示すため |
|---------------------------------------|--|-------------------------------------|---|
- 問2 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、倭国（日本）の政権は、大陸からの侵攻を非常に強く警戒するようになりました。そのための防衛対策として、九州地方を中心に実施された内容として正しいものはどれですか。 (2024年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するために、多賀城を築き鎮守府を置いた | 2. 元軍の再来に備えて、博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を築いた | 3. 大宰府の北側に水城（みづき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した | 4. 白河上皇が北面の武士を組織し、御所の警備と寺社の強訴を防いだ |
|---------------------------------------|-----------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問3 7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」に敗れた倭（日本）の政権が、唐や新羅の侵攻に備えて九州の大宰府付近に設置した、巨大な土塁と水を満たした堀からなる防衛施設の名称を選びなさい。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 防塁 | 2. 水城 | 3. 防人 | 4. 環濠 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問4 飛鳥時代、日本は百済などの朝鮮半島の国々から仏教や漢字、儒教といった大陸の文化を取り入れました。百済から伝えられた仏教が、その後の日本の政治や文化に与えた影響についての説明として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 遣唐使によってもたらされた禅宗が、鎌倉時代の武士の精神的支えとなった。 | 2. 聖徳太子（厩戸王）が仏教を厚く敬い、法隆寺などの寺院を建立して国家の安定を図った。 | 3. 平城京に大きな東大寺を建立し、全国に国分寺や国分尼寺を作ることによって地方を治めた。 | 4. キリスト教の伝来に対抗するため、幕府が寺請制度を整えて仏教を保護した。 |
|--|--|---|--|
- 問5 大化の改新で示された「公地公民」の制度と、その後に作成された「庚午年籍（こうごねんじやく）」の目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 海外との交易を奨励し、特産品を輸出した利益を特定の有力農民に配分することで経済を活性化させるため | 2. 豪族による土地や人民の私有を禁じて国家の管理下におき、税を徴収するための基礎となる人民の把握を行うため | 3. 仏教の教えに基づいて全国に寺院を建立し、疫病や災害から国を守るための祈祷を役人に命じるため | 4. 各地の有力な豪族に対してのみ土地の所有権を認め、天皇の代わりに地方政治を分担させるため |
|---|--|--|--|
- 問6 万葉集の中に「大王（天皇）は神でいらっしゃるの、水鳥の集まる湿地を立派な都になさった」という趣旨の歌で称えられた天皇について、その統治の背景として最も適切な説明はどれか。 (2022年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大化の改新を断行し、蘇我氏を打倒することで、地方の豪族が支配していた土地と民を直接統治する仕組みを作った。 | 2. 壬申の乱に勝利したことで絶大な権力を握り、天皇を神格化して官僚制の整備や律令の編纂を進めた。 | 3. 仏教による国づくりを目指し、全国に国分寺や国分尼寺を建立して、東大寺に大仏を造立した。 | 4. 冠位十二階を制定することで、家柄にとらわれず才能のある人物を役人として登用する制度を整えた。 |
|--|---|--|---|
- 問7 中大兄皇子が中心となって進めた「大化の改新」において、目指された政治体制の説明として最も適切なものはどれか、次の中から選びなさい。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---|
| 1. 武士が政治の実権を握り、幕府によって全国の土地を管理する体制 | 2. 仏教の力を借りて、全国に国分寺を建てることで地方の安定を図る体制 | 3. 有力な豪族が各地を分割して支配し、天皇がその調整役を担う体制 | 4. 土地と人々を国家が直接支配する公地公民の原則に基づく、天皇中心の中央集権体制 |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---|
- 問8 聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度は、それまでの豪族が家柄によって高い官職を独占していた政治の仕組みをどのように変えようとしたものですか。その意図として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 地方の反乱を抑えるために、武力に優れた人物へ征夷大將軍の称号を与えようとした | 2. 有力な豪族に対して、先祖代々の功績に基づき永久に高い位を保証しようとした | 3. 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした | 4. 大陸から伝わった仏教を広めるために、僧侶に対して特別な色の冠を授けようとした |
|---|---|---|---|
- 問9 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた | 2. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ | 3. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた | 4. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた |
|--|---|--|---|
- 問10 飛鳥時代、法隆寺の建立など仏教を中心とした国づくりを進めた聖徳太子は、中国大陸を統一した王朝へ使節を派遣しました。この使節の名称と、その代表として派遣された人物の正しい組み合わせを選んでください。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. 遣唐使 — 小野妹子 | 2. 遣唐使 — 鑑真 | 3. 遣隋使 — 小野妹子 | 4. 遣隋使 — 鑑真 |
|---------------|-------------|---------------|-------------|
- 問11 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。 | 2. 新羅に対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。 | 3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。 | 4. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。 |
|--|---|--|--|
- 問12 推古天皇の摂政として政治を行い、冠位十二階や十七条の憲法を制定した人物は誰ですか。この人物は遣隋使の派遣や法隆寺の建立も行い、天皇を中心とする国家体制の基礎を築きました。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 小野妹子 | 2. 中大兄皇子 | 3. 聖徳太子 | 4. 菅原道真 |
|---------|----------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築き、国内外に対して独立国家としての地位を示すため	当時の東アジア情勢の中で、日本が統一された文明国家であることを示す必要がありました。律令を導入することで、土地と人民を国家の管理下に置く（公地公民）仕組みを作り、戸籍の作成や租・庸・調といった税制を確立させ、天皇に権力を集中させる国家体制の構築を目的としました。
問2	答え 3 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇（中大兄皇子）は唐・新羅の侵攻に備え、対外防衛の拠点である大宰府を保護するために水城や山城を築きました。また、東国の兵士を「防人」として九州沿岸の警備に当たらせ、国家としての守りを固めました。他の選択肢は鎌倉時代の元寇対策や、平安時代の東北経営・院政期の説明です。
問3	答え 2 水城	663年の白村江の戦いで、倭・百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に大敗したことを受け、当時の政権は日本への侵攻を強く警戒しました。その防衛策として、九州の政治・外交の拠点であった大宰府を保護するために、現在の福岡県太宰府市周辺に「水城」と呼ばれる全長約1.2kmにも及ぶ大規模な土壁と堀を築きました。あわせて、北九州の沿岸には「防人」と呼ばれる兵士を配置し、警戒を強めました。
問4	答え 2 聖徳太子（厩戸王）が仏教を厚く敬い、法隆寺などの寺院を建立して国家の安定を図った。	百済から伝来した仏教は、有力豪族である蘇我氏によって受け入れられ、のちに聖徳太子の政治に取り入れられました。聖徳太子は「三宝を敬え」という内容を含む十七条の憲法を制定し、法隆寺などの寺院を建てることで、仏教を基盤とした国家づくりを進めました。これが日本最初の仏教文化である飛鳥文化の発展につながりました。
問5	答え 2 豪族による土地や人民の私有を禁じて国家の管理下におき、税を徴収するための基礎となる人民の把握を行うため	公地公民は、それまで豪族が私有していた土地（田荘）や人民（部曲）を、天皇・国家が直接支配する体制へと変える方針です。これを実現するために、日本最古の全国的な戸籍とされる庚午年籍（670年）などが作成され、一人ひとりの人民を把握することで、租・庸・調といった税の徴収や兵役の割り当てが可能になりました。
問6	答え 2 壬申の乱に勝利したことで絶大な権力を握り、天皇を神格化して官僚制の整備や律令の編纂を進めた。	天武天皇は壬申の乱での勝利を通じて、それまでの有力豪族による合議制的な政治から、天皇が絶対的な権力を持つ政治へと転換させました。万葉集の歌は、その強大な権力を「神」と表現して称賛したものです。彼はこの権力に基づき、飛鳥浄御原令の編纂や、のちの平城京へとつながる官僚機構の整備に着手しました。
問7	答え 4 土地と人々を国家が直接支配する公地公民の原則に基づく、天皇中心の中央集権体制	それまでは蘇我氏のような有力豪族が強大な権力を持っていましたが、中大兄皇子は中国（唐）の制度を参考に、天皇が全国を直接支配する仕組みを整えようとしていました。この改革の基本方針は、646年に出された「改新の詔」によって示されました。
問8	答え 3 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした	それまでの日本は、氏姓制度によって特定の豪族が世襲的に高い地位を占めていた。聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権的な国家を作るため、家柄ではなく個人の能力や実績を評価する「冠位十二階」を導入した。これにより、優れた人材を政府に集めることが可能になり、官僚組織の基礎が築かれた。冠の色で位階を区別する視覚的な序列化も行われた。
問9	答え 3 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防衛を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問10	答え 3 遣隋使 ― 小野妹子	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた7世紀初め、中国を統一していた王朝は隋です。太子は、大陸の高度な文化や制度を取り入れるため、607年に小野妹子を使節として派遣しました。鑑真は奈良時代に唐から日本へ渡った高僧であり、時代や背景が異なります。
問11	答え 4 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。
問12	答え 3 聖徳太子	推古天皇を補佐する摂政という立場に就き、実力主義を取り入れた冠位十二階や、官吏としての心得を定めた十七条の憲法を制定しました。また、小野妹子らを遣隋使として派遣し、中国（隋）の進んだ制度や文化を取り入れることで、豪族中心の政治から天皇中心の政治へと改革を進めました。

- 問1 聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度は、それまでの豪族が家柄によって高い官職を独占していた政治の仕組みをどのように変えようとしたものですか。その意図として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 有力な豪族に対して、先祖代々の功績に基づき永久に高い位を保証しようとした | 2. 地方の反乱を抑えるために、武力に優れた人物へ征夷大將軍の称号を与えようとした | 3. 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした | 4. 大陸から伝わった仏教を広めるために、僧侶に対して特別な色の冠を授けようとした |
|---|---|---|---|
- 問2 飛鳥時代から奈良時代にかけて確立された、地方を統治するための仕組みについて、中央から派遣された役人である「国司」の説明として最も適切なものはどれか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 明治時代に政府から任命され、旧藩の区域を廃して新たに置かれた県の長官となった。 | 2. もともとその土地を治めていた有力な豪族が任命され、実質的な徴税実務を世襲で担った。 | 3. 中央の都から派遣され、一定の任期を持って地方の行政や裁判、軍事を担った。 | 4. 鎌倉幕府によって各国の土地管理や治安維持のために派遣され、年貢の徴収を行った。 |
|--|--|---|--|
- 問3 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な公家勢力であった物部氏を制圧した | 2. 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した | 3. 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた | 4. 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした |
|---|---|---|---|
- 問4 6世紀における仏教の伝来経路とその背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|-------------------------------------|
| 1. 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。 | 2. インドの僧侶がシルクロードを通り、高句麗を経由せずに直接日本へ来航した。 | 3. 中国の隋から直接、遣隋使によって初めて日本へ仏教の教えが持ち帰られた。 | 4. 東南アジアから海路を経て、直接日本の九州地方へ仏教が伝えられた。 |
|---|---|--|-------------------------------------|
- 問5 701年に制定され、天皇を政治の頂点に置く中央集権的な統治の仕組みを確立した法令は何ですか。この法令では、行政を司る組織として太政官などが設けられました。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|----------|---------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 十七条の憲法 | 3. 御成敗式目 | 4. 大宝律令 |
|----------|-----------|----------|---------|
- 問6 603年に制定された冠位十二階の制度が、それまでの日本の政治制度（氏姓制度）と比較して画期的であったとされる理由は、どのような点にありますか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 個人の能力や天皇への貢献度に応じて位が授けられ、地位の世襲を防ごうとした点 | 2. 身分に関係なくすべての国民に土地を割り当て、収穫した稲を税として徴収した点 | 3. 仏教を政治の道徳的規範として取り入れ、役人が守るべき役人心得を明文化した点 | 4. 地方の有力な豪族に対し、その一族の血筋に基づいて自動的に高い官職を保証した点 |
|--|--|--|---|
- 問7 奈良県にある、金堂や五重塔を備えた現存する世界最古の木造建築物として知られる法隆寺を建立し、仏教を基盤とした飛鳥文化を象徴する人物として最も適切な人物は誰ですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 聖武天皇 | 2. 藤原道長 | 3. 聖徳太子 | 4. 天武天皇 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問8 古代の日本の歴史を振り返ると、天皇が積極的に仏教を保護し、各地に大規模な寺院を建立させたことがわかります。このように国家が特定の宗教を重んじた背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|
| 1. 儒教の教えに基づき、武士が政治の主導権を握るための正当性を得るため | 2. 大陸との公的な交流をすべて断絶し、国内の勢力だけで自立した国づくりを行うため | 3. キリスト教の伝来を阻止し、日本独自の八百万の神々への信仰を一本化するため | 4. 大陸の進んだ文化や技術を導入し、天皇を中心とした国家の仕組みを整えるため |
|--------------------------------------|---|---|---|
- 問9 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた大和政権（日本）は、大陸からの侵攻を恐れて九州などの防衛を強化しました。その際、九州北部に築かれた土塁と堀による防御施設、およびそこに配置された兵士の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-------------|----------|-----------|
| 1. 多賀城と防人 | 2. 水城と東山道の兵 | 3. 水城と防人 | 4. 多賀城と健児 |
|-----------|-------------|----------|-----------|
- 問10 7世紀から8世紀にかけて、日本が天皇を中心とした法に基づく国家体制（律令国家）を整備していった過程について、出来事を時系列に沿って正しく並べたものはどれですか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都 | 2. 十七条の憲法の制定 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都 → 公地公民の方針の提示 | 3. 藤原京への遷都 → 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 | 4. 公地公民の方針の提示 → 十七条の憲法の制定 → 藤原京への遷都 → 近江大津宮への遷都 |
|---|---|---|---|
- 問11 7世紀後半、皇位継承をめぐる「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。 (2022年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 天智天皇 | 2. 桓武天皇 | 3. 聖徳太子 | 4. 天武天皇 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 飛鳥時代から律令国家の形成期において、大王が自らを中心とする国家体制の確立を目指した主な目的として、最も適切な記述を選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため | 2. 民衆に参政権を与えて自由な社会を作り、国民の権利を守るため | 3. 豪族に各地の領地を自由に支配させ、武力による統一を進めるため | 4. 地方豪族の権力を強化し、連合政権による分割統治を行うため |
|--|----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
- 問13 7世紀後半、日本（倭）は百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。その後、唐や新羅による日本への侵攻に備え、九州北部に位置する政治の拠点「大宰府」を守るために築かれた、大規模な土塁と堀による防御施設を何といいますか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 水城 | 2. 烽火 | 3. 防人 | 4. 多賀城 |
|-------|-------|-------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 家柄に関わらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用し、天皇中心の政治体制を整えようとした	それまでの日本は、氏姓制度によって特定の豪族が世襲的に高い地位を占めていた。聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権的な国家を作るため、家柄ではなく個人の能力や実績を評価する「冠位十二階」を導入した。これにより、優れた人材を政府に集めることが可能になり、官僚組織の基礎が築かれた。冠の色で位階を区別する視覚的な序列化も行われた。
問2	答え 3 中央の都から派遣され、一定の任期を持って地方の行政や裁判、軍事を担った。	律令制における地方統治の仕組みでは、中央集権体制を強化するために、最上位の行政単位である「国」に都から国司が派遣された。国司は任期が終われば都に戻る仕組みとなっており、現地の豪族が任命され世襲された「郡司」とは、役割や身分が明確に区別されていた。なお、地頭（鎌倉時代）や守護大名（室町時代）、県令（明治時代）とは、設置された時代や目的が異なる。
問3	答え 3 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問4	答え 1 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。	古代日本の仏教伝来は、朝鮮半島の百済を経由して行われました。これは単なる宗教の普及ではなく、当時の東アジアの国際情勢の中で、百済が日本（倭）との同盟関係を維持・強化しようとする政治的な目的も含まれていました。東南アジア経由やインドからの直接伝来は、この時期の公式な伝来とは異なります。
問5	答え 4 大宝律令	唐の制度を参考にして、刑罰を定めた「律」と政治の決まりを定めた「令」が整備されました。これにより、天皇を中心とする律令国家の体制が整い、中央には太政官や神祇官が置かれ、地方は国・郡・里に分けられて中央から派遣された国司などが統治する仕組みが明確になりました。
問6	答え 1 個人の能力や天皇への貢献度に応じて位が授けられ、地位の世襲を防ごうとした点	それまでの政治体制では、特定の有力豪族が代々特定の官職を世襲する「氏姓制度」が一般的でした。冠位十二階は、個人の「才能」や「手柄」を基準に位を与える仕組みであり、家柄よりも個人の資質を優先することで、天皇による中央集権的な統治体制を強化する狙いがありました。
問7	答え 3 聖徳太子	飛鳥時代において仏教を深く崇敬し、厚く保護したことで知られています。建立された法隆寺は、当時の優れた建築技術を今に伝えるだけでなく、大陸から伝わった仏教の教えに基づき、国を治めようとしたこの人物の政治理念を反映した歴史的建造物です。
問8	答え 4 大陸の進んだ文化や技術を導入し、天皇を中心とした国家の仕組みを整えるため	当時の日本は、中国の大陸王朝（隋や唐）のような強力な中央集権国家を目指していました。寺院の建立には高度な土木・建築技術や金属加工技術が必要であり、教典の読解には高度な教育が不可欠でした。仏教を広めることは、これら大陸の先進的な知見を体系的に吸収することを意味しており、それを天皇が主導することで、天皇の権威を高め、国をまとめる大きな助けとなりました。
問9	答え 3 水城と防人	敗戦後、天智天皇は唐や新羅の侵攻に備えるため、対馬や九州北部に「防人（さきもり）」と呼ばれる兵士を配置しました。また、大宰府を守るために福岡平野の奥に「水城（みづき）」という巨大な土塁と堀を築き、さらに周囲の山々には「朝鮮式山城（ちょうせんしきやまじろ）」を建設して防衛網を固めました。多賀城は後世に東北地方の蝦夷に対抗するために築かれたものです。
問10	答え 1 十七条の憲法の制定 → 公地公民の方針の提示 → 近江大津宮への遷都 → 藤原京への遷都	聖徳太子が役人の心得を示した十七条の憲法（604年）を制定した後、中大兄皇子らによる大化の改新（646年）で公地公民の原則が示されました。その後、天智天皇としての近江大津宮への遷都（667年）を経て、694年に持統天皇によって中国の都にならった本格的な都城である藤原京へと移りました。藤原京が大津宮よりも後の時期である点に注意が必要です。
問11	答え 4 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめぐる争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問12	答え 1 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため	唐や新羅などの緊迫した東アジアの国際情勢に直面した日本は、豪族同士の対立を防ぎ、天皇を中心とする強力な中央集権国家を築く必要がありました。そのため、豪族の私有地や私民を廃止し、国家が直接統治する体制へと改められました。
問13	答え 1 水城	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭国は、大陸からの報復による侵攻を強く警戒しました。九州の政治・外交の要所であった大宰府を防御するため、その北側に全長約1.2km、高さ約10mにも及ぶ巨大な土塁を築き、博多湾側には水を湛えた堀を設けました。これを水城と呼び、日本の古代国家における防衛体制の整備を象徴する遺構となっています。

- 問1 奈良の法隆寺が建立された時期に、聖徳太子が主導して進めた政治改革についての記述です。家柄に縛られた従来の政治を改め、実力ある人物を登用するために制定された制度を次から選びなさい。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|----------|-----------|
| 1. 大宝律令 | 2. 冠位十二階 | 3. 班田収授法 | 4. 十七条の憲法 |
|---------|----------|----------|-----------|
- 問2 7世紀後半、日本が白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州北部の防衛を強化するために大宰府の北西に築かれた、全長約1.2kmに及ぶ巨大な土塁と堤防からなる防衛施設を何といいますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|-------|
| 1. 多賀城 | 2. 壇ノ浦 | 3. 大仙古墳 | 4. 水城 |
|--------|--------|---------|-------|
- 問3 大化の改新の後に出示されたとする詔（みことのり）では、それまで各地の豪族が私有していた土地や人民を廃止し、すべてを朝廷が直接支配するという方針が示されました。この律令国家の根本となる原則を何といいますか。 (2023年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|------------|--------|----------|
| 1. 公地公民 | 2. 墾田永年私財法 | 3. 総領制 | 4. 班田収授法 |
|---------|------------|--------|----------|
- 問4 645年に始まった政治改革の資料において、中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を打倒し、新たな政治体制を築こうとする記述が見られます。この一連の改革によって日本で初めて元号が導入された背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 蘇我氏が代々使用してきた独自の暦を廃止し、仏教の教えに基づいた新しい時間管理を行うため。 | 2. 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。 | 3. 有力な豪族たちが交代で元号を決める権利を持つことで、貴族政治の安定を図るため。 | 4. 中国の唐に対して完全な服従を誓い、唐と同じ元号を使用することで安全保障を得るため。 |
|---|---|--|--|
- 問5 7世紀後半、天武天皇の時代に鑄造されたとされる日本最古の銅銭の名称を次の中から選びなさい。かつては708年に発行された和同開珎が最古とされていましたが、飛鳥池遺跡の発掘調査などにより、この貨幣の存在が改めて注目されました。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|--------|---------|
| 1. 皇朝十二銭 | 2. 無文銀銭 | 3. 富本銭 | 4. 和同開珎 |
|----------|---------|--------|---------|
- 問6 飛鳥文化が栄えた時代の歴史的な出来事について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 聖武天皇が国ごとに国分寺を建て、奈良に東大寺の大仏を造立させた。 | 2. 鑑真が来日して唐招提寺を建立し、仏教の正しい戒律が日本に伝えられた。 | 3. 空海や最澄が唐から新しい仏教を伝え、比叡山や高野山に寺院が開かれた。 | 4. 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問7 7世紀後半に起こった壬申の乱について、その出来事の背景や結果を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2017年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 天皇を退位したあとで政治の実権を握ろうとした白河上皇が、藤原氏の摂関政治を抑えるために院政を開始した。 | 2. 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。 | 3. 仏教勢力の影響を排除し、政治を立て直すために、桓武天皇が都を平城京から平安京へと移した。 | 4. 地方武士の不満が高まったことで発生し、平将門が関東で自ら「新皇」を名乗って朝廷に反旗を翻した。 |
|--|--|---|--|
- 問8 7世紀中ごろ、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒して始めた政治改革（大化の改新）ののち、即位して天智天皇となった彼の事績について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 壬申の乱で大友皇子を破って即位し、強力な権力を持って飛鳥浄御原宮で新しい政治の仕組みを整えた。 | 2. 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。 | 3. 聖徳太子の摂政として冠位十二階や十七条の憲法を制定し、仏教を厚く保護して法隆寺などの寺院を建立した。 | 4. 天武天皇のあとを継ぎ、律令国家の完成を目指して平城京に都を移し、和同開珎などの貨幣を鑄造させた。 |
|--|---|---|---|
- 問9 日本の税の歴史をたどる資料において、その出発点として紹介されるのが701年に完成した「大宝律令」です。この法令によって定められた、都での労役の代わりに布を納める「庸」や、各地の特産物を納める「調」といった税制度について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた | 2. 税を納めるために都へ向かう際の食料や旅費は、すべて国から支給されていた | 3. 「庸」は、収穫した稲の一定割合を地方の役所に納めるものであった | 4. 「調」は、土地の面積に応じて全ての耕作者に一律で課せられる税であった |
|--|--|------------------------------------|---------------------------------------|
- 問10 飛鳥時代に建立され、現存する世界最古の木造建築物を含むことで知られる、奈良県にある寺院を次の中から選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 唐招提寺 | 2. 法隆寺 | 3. 平等院 | 4. 東大寺 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問11 6世紀における仏教の伝来経路とその背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--|---|---|
| 1. 東南アジアから海路を経て、直接日本の九州地方へ仏教が伝えられた。 | 2. 中国の隋から直接、遣隋使によって初めて日本へ仏教の教えが持ち帰られた。 | 3. 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。 | 4. インドの僧侶がシルクロードを通り、高句麗を経由せずに直接日本へ来航した。 |
|-------------------------------------|--|---|---|
- 問12 小野妹子が中国の王朝である隋へ派遣された際、聖徳太子は「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」という内容の国書を持たせました。この記述から読み取れる、当時の日本が隋に対してどのような外交姿勢をとろうとしていたか、最も適切なものを選びなさい。 (2021年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 1. 隋の文化を拒絶し、日本独自の鎖国体制を築こうとする姿勢 | 2. 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢 | 3. 隋の皇帝に対して臣下としての礼を尽くし、称号を求める姿勢 | 4. 隋の皇帝に従属し、周辺諸国の支配権を認めてもらう姿勢 |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
- 問13 西暦による歴史の時代区分において、西暦601年から西暦700年までの100年間を指す名称として正しいものを選びなさい。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 6世紀 | 2. 7世紀 | 3. 5世紀 | 4. 8世紀 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問14 701年に制定された大宝律令によって確立された、当時の政治体制に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 武士の慣習を成文化したものであり、領地に関する争いを裁くための基準を示した仕組み。 | 2. 徳政令を発布することで、借金に苦しむ武士や民衆を救済し、社会の安定を図る仕組み。 | 3. 天皇を頂点とする中央集権体制を目指し、太政官が政策決定を行い、全国を組織的に統治する仕組み。 | 4. 役人の心得として天皇への忠誠や仏教を敬うことを説き、豪族たちの団結を求めた仕組み |
|--|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 冠位十二階	聖徳太子が活躍した飛鳥時代初期、法隆寺の建立と並行して様々な政治改革が行われました。その中でも、氏姓制度のように家柄で役職が決まる仕組みではなく、個人の才能や功績によって役人を取り立てる画期的な制度が「冠位十二階」です。これは、能力のある人材を確保し、天皇を支える役人を育てる狙いがありました。
問2	答え 4 水城	663年の白村江の戦いで大敗した倭（日本）は、唐や新羅が日本列島へ侵攻してくることを強く警戒しました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の外交・軍事の拠点であった大宰府を保護するため、福岡平野の最も狭まった場所に巨大な土塁を築き、その外側に水を貯えた「水城」を建設して防衛線を整えました。
問3	答え 1 公地公民	大化の改新（645年）後の「改新の詔」において、第一条に掲げられた方針です。それまで豪族が私有していた土地（田荘）や人民（部民）を廃止し、すべてを天皇・朝廷が所有・支配するものと決めました。これにより、豪族の勢力を抑え、天皇を中心とする中央集権国家の基礎を築くことが図られました。
問4	答え 2 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。	元号の制定は、単なる年数の数え方の変更ではなく、その土地を支配する君主が時間をも支配するという「空間と時間の主権」を象徴する行為でした。大化の改新において中大兄皇子らが日本初の元号「大化」を定めたのは、それまで力を持っていた蘇我氏などの有力豪族を抑え、天皇を中心とした律令国家を形成しようとする強い政治的意志の表れです。
問5	答え 3 富本銭	奈良県の飛鳥池遺跡などで大量に出土したことにより、それまで最古の貨幣と考えられていた和同開珎（708年発行）よりも古い683年頃に、天武天皇によってつくられたことが判明しました。表面には「富」と「本」の文字が記されています。当時の律令国家としての体制を整える一環として、また呪術的な目的も含めて鑄造されたと考えられています。
問6	答え 4 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。	飛鳥文化の背景には、遣隋使の派遣によって中国（隋）の進んだ文化や仏教が直接導入されたことがあります。鑑真や聖武天皇の事績は8世紀の奈良時代（天平文化）、空海や最澄の活動は9世紀初めの平安時代（弘仁・貞観文化）の出来事であり、飛鳥文化とは時期が異なります。
問7	答え 2 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。	壬申の乱は、大化の改新から続く律令国家形成の過程で発生した極めて重要な内乱です。勝利した天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から、天皇に権力を集中させる政治体制へと移行させ、後の大宝律令の完成へとつながる基礎を固めました。他の選択肢は、8世紀末から11世紀にかけての異なる時代の出来事です。
問8	答え 2 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。	中大兄皇子（天智天皇）は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、対外防衛を最優先課題としました。そのため、博多湾を見下ろす大宰府に水城を、また西日本各地に朝鮮式山城を築き、防人を配置しました。あわせて都を近江の大津宮へ移し、670年には日本初の全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成して、徴兵や徴税の基盤を整え、中央集権化を進めました。他の選択肢は、聖徳太子、元明天皇、天武天皇の事績に関する記述です。
問9	答え 1 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた	大宝律令のもとで課せられた「庸」や「調」は、負担者自身が都まで運搬する義務（運脚）を伴っており、農民にとって極めて重い負担となっていました。なお、収穫した稲を納めるのは「租」であり、食料などの旅費も自己負担でした。
問10	答え 2 法隆寺	聖徳太子（厩戸王）によって建立されたと伝えられるこの寺院は、7世紀の建築様式を今に伝える貴重な遺構です。1993年には、日本で初めての世界文化遺産の一つとして登録されました。同時期に建立された他の寺院との違いとして、世界最古の木造建築が現存している点が最大の特徴です。
問11	答え 3 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。	古代日本の仏教伝来は、朝鮮半島の百済を経由して行われました。これは単なる宗教の普及ではなく、当時の東アジアの国際情勢の中で、百済が日本（倭）との同盟関係を維持・強化しようとする政治的な目的も含まれていました。東南アジア経由やインドからの直接伝来は、この時期の公式な伝来とは異なります。
問12	答え 2 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢	聖徳太子は、当時の中国を中心とした国際秩序（冊封体制）に従うのではなく、日本を「日出づる処」、隋を「日没する処」と表現し、双方の君主を「天子」と呼ぶことで、対等な立場で外交を行おうとしました。これには、隋の力を背景にせずとも自立した国家であることを示す意図がありました。
問13	答え 2 7世紀	歴史上の世紀の数え方は、1世紀を1年から100年までと定義します。これに従うと、601年から700年までの期間は7番目の100年間となるため、7世紀と呼ばれます。西暦の百の位の数字に1を足すと、その年が何世紀かがわかります。
問14	答え 3 天皇を頂点とする中央集権体制を目指し、太政官が政策決定を行い、全国を組織的に統治する仕組み。	大宝律令の制定により、天皇が国政の最高権威となり、そのもとで実務を担う太政官を中心とした官僚機構が機能するようになりました。これは土地や人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則を法的に裏付けるものであり、戸籍の作成や公地を分け与える班田収授法、租・庸・調などの税制と密接に関わっています。